

「原っぱ（野原）」再生の提案

提案書

提案概要

日本人の原風景の一つともいえる『原っぱ』。かつて、TV放送された「日本昔話」をはじめとする民謡・民話あるいは童謡の舞台となっている『原っぱ』。今でも、私たちの心の中では、身近な環境の一部という感覚はあるものの、しかし、探すと見つからないものひとつになっています。日本らしさ、あるいは九州らしさを取り戻すための風景再生、自然再生の一つの方策として、今回提案するアイデアは、身近な「原っぱ（のはら）」の再生を提案するものです。

提案は、①都市公園のなかに、街区公園、近隣公園に加え、「街区緑地」「近隣緑地」を設けること、②休耕田の『原っぱ（野原）』化を行うこと、③民間地の『原っぱ（野原）』化をおこなうことの3つの提案からなっています。



1. 提案にいたった思い

1-1. 野原の再生 その目的と主旨

日本人の原風景の一つともいえる『原っぱ』。かつて、TV放送された「日本昔話」をはじめとする民謡・民話あるいは童謡の舞台となっている『原っぱ』。今でも、私たちの心の中では、身近な環境の一部という感覚はあるものの、しかし、探すと見つからないものひとつになっている。

幸い、河川空間では、その利用が極めて制限されていたため「川原」は健在であるが、里地・里山で身近な自然再生がうたわれる中、「原っぱ」「のはら」「のっばら」は、なかなか身近には見つからない。

かつては、農村や郊外では牧草地等として、あるいは、都市部でも開発予定地として切り開かれた丘が『原っぱ』となり、子供たちの遊び場となって、私たちの身の回りにあった。

日本らしさ、あるいは九州らしさを取り戻すための風景再生の一つの方策として、今回提案するプロジェクトは、身近な「原っぱ（のはら）」の再生を提案するものです。

① 身近な自然空間(生物の生息空間)としての野原の再生

河川では、多自然型川づくり等の自然に配慮した河川整備の成果として、水辺の生態系の復活が着実に進んでいるように思えます。また、ビオトープづくりや里地・里山の復元等の取り組みも進んでいます。これらの自然環境と一体的（ネットワーク的）に連続するものとして、『原っぱ（野原）』の復活を提案します。

② 私たちの原風景としての野原の再生

失われつつある日本の心、日本の魂。それらを呼び戻すためには、風土・風景の再生が必要であると考えます。美しい日本のふるさとの原風景の基本要素の一つである『原っぱ（野原）』を再生することは、ふるさと（故郷）の景観・風景を呼び戻すことであり、ふるさとを心の中だけでなく、実態を持ったものにすることが必要です。

③ 憩い、やすらぎ、癒し系緑地空間としての野原の再生

I T時代といわれ時の流れの速い時間間隔の中で日常的に生活している私たちは、必要以上に緊張感を要求されています。大人も子供も、ペットや絵本等の癒し系のものが人気を集めていますが、私たちの日常空間の中で『原っぱ（野原）』があることは、やすらぎ、癒しを受ける場所が確保されることにつながると考えます。

④ 自由に遊びまわれる子供たちの創造の場としての野原の再生

子供たちのための安全な遊び空間として、現在は、校庭程度しかなくなりました。かつては、川原や裏山、そして広っぱがあり、自由にかつ創造性を持って遊ぶことができました。テレビゲームの時代といわれて久しいですが、このような時代であるからこそ、「野原」で遊ぶことが子供たちに必要ではないかと考えます。

⑤ 地域の魅力的な景観づくりのための野原の再生

地域の風景が、失われつつあるといわれます。大型の郊外店、高層住宅団地等が立つ中、地方の風景は、画一化し、個性を失ったものになりつつあります。

緑豊かな地域の景観づくりのためには、「野原」の復活がもとめられるのではないかと考えます。

1-2. 『原っぱ（野原）』復活の考え方

『原っぱ（野原）』を復活させるための方策として、次の3つの提案を行います。

①都市公園のなかに、街区公園、近隣公園に加え、「街区緑地」「近隣緑地」を設けること

身近な都市公園には、「街区公園」「近隣公園」がありますが、それぞれ、人工的な施設である広場や遊具が中心となった公園として整備されます。これらの公園とは別に、新たに「街区緑地（通称：街の『原っぱ（野原）』）」「近隣緑地（通称：地域の『原っぱ（野原）』）」として、草地を中心とした緑地公園を整備することを提案します。

②休耕田の『原っぱ（野原）』化を行うこと

休耕田を中心に、『原っぱ（野原）』とする規模は小さくても、数多くの自然再生事業を進めることを提案します。これらは、里地・里山、あるいは河川や溜池等の水辺空間と一体的に、緑のネットワーク、生態系のネットワークとして、私たちにとっての快適性と生物の生息環境としての多様性を確保することになります。

③民間地の『原っぱ（野原）』化をおこなうこと

郊外の空いた土地を舗装して駐車場として整備し貸し出している実態が多く見受けられます。舗装せず『原っぱ（野原）』として運営・管理する駐車施設とすることで、何らかのメリットを受け取ることができるようにすることを提案をします。例えば、緑地保全型駐車施設に対しては、公共負担でシルバー人材による管理等が受けられる等。

1-3. 具体的な活動の切り口について（市民との協働作業、ワークショップづくり）

『原っぱ（野原）』の復活に欠かせないのが、地域の人々との協働体制の確保です。

河川環境整備事業（河川公園等の整備）等においては、これまで数多くの地域住民とのワークショップ方式による取り組みがなされていますが、『原っぱ（野原）』の復活のためには、土地の提供者への理解協力に加え、地域住民、行政職員、民間企業（コンサルタントや施工業者）のボランティア活動、あるいはシルバー人材による管理等への協働連携が望まれます。

地域と一体になって、『原っぱ（野原）』の復活を模索すること、この行為そのものが地域づくりの原動力にもなるものと期待されます。また、『原っぱ（野原）』の復活で議論されたことや、いろいろな人々（専門家や有識者、あるいは先駆者等）から学んだ知識や情報は、これからの街づくりの仕掛けとしても大いに役立つものとなるのではないかと期待されます。

1-4. 『原っぱ（野原）』づくりのための技術的な研究

『原っぱ（野原）』の復活に欠かせないのが、技術的な取り組みです。現在、自然再生事業等で、湿地復元や里山再生等が行われています。

街中に『原っぱ（野原）』を復元するといっても、ただ単に土地を放置しておけばいいというものではありません。乾燥した土地には、セイタカアワダチソウ等の外来種の植物が繁茂したり、そうでない場合でも、クズ等の繁殖力の旺盛な植物が繁茂することになってしまいます。

適度な『原っぱ（野原）』にするための条件について研究し、その知見を広く普及させなければいけません。この事業そのものは、自然再生事業への流れの一貫としても受け入れてもらえるものと期待されます。

2. 『原っぱ（野原）』復活の段階的提案

① 実施の流れと工程計画

『原っぱ（野原）』復活のステップとして、次のような段階を経て実施することを提案します。

第1ステップ：地域の緑地状況と「原っぱ」候補地の探索
(地域の人とともに地域の環境を把握し、「原っぱ」候補地を探す)

第2ステップ：「原っぱ」のイメージ作成
(「原っぱ」候補地に対して、求める「原っぱ」のイメージをつくる)

第3ステップ：「原っぱ」復活のための技術的手法の研究
(「原っぱ」復活のための技術的手法(植生・造成等)を考える)

第4ステップ：「原っぱ」管理・活用の方法の検討
(復活した「原っぱ」の管理方法や利用方法について考える)

第5ステップ：「原っぱ」を街づくり展開へ
(街づくりへ展開していくための方策について考える)

② 提案イメージ

提案する『原っぱ（野原）』の復活イメージは、次のようなものです。

「街区緑地（街の原っぱ）」



← 舗装していない住宅地内の駐車場

「近隣緑地（地域の原っぱ）」



都市部の原っぱ状態の未利用地 →